

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	第33回医学情報サービス研究大会(長崎)の参加者企画をコーディネートして
作成者(著者)	牛澤, 典子
公開者	日本薬学図書館協議会
発行日	2017.01.01
ISSN	03862062
掲載情報	薬学図書館. 62(1). p.35-37.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	特集
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD05967516

《特集：第 33 回医学情報サービス研究大会》

第 33 回医学情報サービス研究大会（長崎）の 参加者企画をコーディネートして

牛 澤 典 子*

1. はじめに

10 年以上前のことになりますが、「公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド」¹⁾という本の翻訳に参加させていただきました。私が担当したのは第 7 章の“消費者健康情報提供のための連携”で、アメリカで医学系図書館と公共図書館とが連携している例がいくつも紹介されていました。その頃の日本といえば、東京都立中央図書館や東京女子医科大学病院などがようやく一般の方への医療・健康情報サービスをはじめたばかりでした。日本での医学系図書館と公共図書館の連携は、とてもありえないことに思えました。

ところが、その後の展開はどうだったでしょう!? 医学系図書館、公共図書館がともに一般の方へのサービスを次々と開始し、鳥取県立図書館と県立病院の図書室、愛知医科大学医学情報センター（図書館）と近隣の公共図書館などを皮切りに連携をしています。関心が高まるにつれて、日本薬学図書館協議会と日本医学図書館協会が共催する図書館総合展フォーラムでも一般の方へのサービスを取り上げることが増え、公共図書館員の参加が増えています。医学情報サービス研究大会（以下、MIS）²⁾で公共図書館員もたくさん発表されています。そしてまた、そういうところで出会った方たちの連携も、もはや珍しいことではありません。この流れが止まることはないでしょう。

2. 公共図書館での MIS 初開催

MIS は 1984 年から毎年開催されている大会ですが、今年初めて公共図書館が会場となりました。2008 年に開館した長崎県立図書館です。課題解決サービスの一つとしてがん情報サービスを 2011 年に開始し、長崎みなとメディカルセンター市民病院や地域行政と連携したサービスを展開されています。連携事業の実績の一つとして、地域に密着したきめ細かい情報提供を目的とした冊子「がんと向き合うサポートブック ながさき」³⁾が

発行されていることは、他に類を見ない快挙といえるでしょう。

このような長崎県立図書館を会場とした MIS ですから、公共図書館から多数の参加が期待されました。ここでぜひ、医学系図書館員と公共図書館員が出会って、おしゃべりできる場所を作りたいと思いました。

3. 事前準備

とはいえ、計画的に準備を進めていたわけではありません。Facebook で MIS の紹介をした方へのコメントとして、「健康情報について語り合う参加者企画をやりたい」と私が投稿し、それに返信してくださった長崎県立図書館の黒岩綾香さんと組むことになったのです。締切り数日前のことでした。タイトルは、長崎ことばを盛り込んだ“語らんば、医療・健康情報サービス”に決定しました。2 人だけで実施するのも大変ですので、健康情報サービス関連で関わり合った方々と“チーム語らんば”を結成しました（表 1）。

チームの事前準備は、事前抄録の作成と、どのように運営するかを用意することです。全くの手弁当であり、メンバーは各地に散らばっているため、基本的にメールでやりとりしました。当日は参加できないけれど、事前準備だけでも手伝ってくださったメンバーもあり、大変心強く感じました。

テーマがあったほうが話し合いをしやすいだろうとのことで、1) 医療・健康情報サービスを取り上げるときに避けては通れない「選書」、2) 病気の理解に役立ち、不安を和らげてくれる「絵本」、3) 熊本地震が起こったことで、図書館からの情報提供は復興にも役立つことを話し合う「災害」の 3 つをとりあげました。「災害」はまた、医療と同じく地域を抜きにしては語れないというチームの思いもありました。参加者がみな、3 つのテーマをまわるようにしました。

この企画の目的は、まず出会うことです。何か結論を出す必要があるわけではありません。同じテーブルに座って、互いの状況に耳を傾け、どんな思いをもっているか話しあうことを目的としました。模造紙とカラーペンを使って、話し合ったことを書き出すスタイルとしました（図 1）。

* Noriko USHIZAWA
東邦大学医学メディアセンター大橋病院図書室
〒153-8515 東京都目黒区大橋 2-17-6
E-mail: ushizawa@mnc.toho-u.ac.jp

表1 チーム語らんば

牛澤 典子	東邦大学医学メディアセンター (企画者・当日も参加)	
黒岩 綾香	長崎市立図書館 (企画者・当日も参加)	
塚田 薫代	静岡県立こども病院 (当日も参加)	
市川美智子	愛知医科大学医学情報センター (図書館) (当日も参加)	
関 和美	亀田総合病院図書室	
佐藤 晋巨	聖路加国際大学学術情報センター	
島津 芳枝	宇佐市民図書館	
岡田 光世	東邦大学医学メディアセンター	
舟田 彰	川崎市立宮前図書館 (当日も参加)	
荒木亜紀子	川崎市立井田病院図書室 (当日も参加)	順不同・敬称略

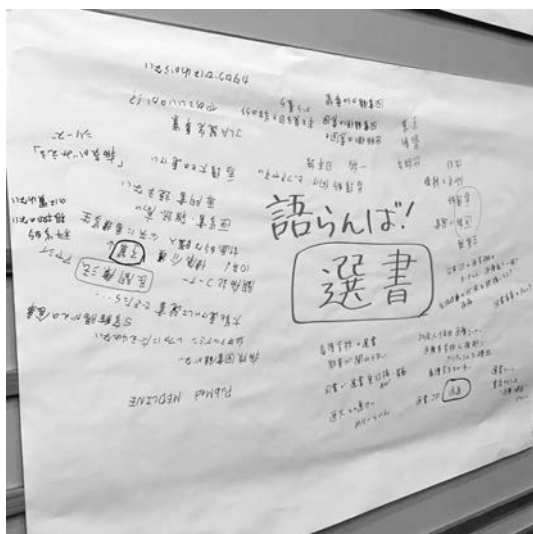


図1 模造紙 (撮影 牛澤)



図2 語らんば風景 (撮影 大和市長立図書館 佐藤美加氏)



図3 語らんば風景 (撮影 大和市長立図書館 佐藤美加氏)

4. 実施日当日

当日は、企画開始から40分前にチームが集合して準備するというタイトな状況でした。MIS自体当日参加が可能のため、何人参加されるかもわからないなかセッティングをしました。メールでのやりとりによる事前準備でしたので、メンバー各人の思い描いていたものは必ずしも一致していなかったかもしれません。そこはご愛嬌で勘弁してもらおうとして、企画の開始です。

会の冒頭はアイスブレイキングを兼ねて、黒岩さんの絵本の読み聞かせを披露していただき、手遊び「でんでらりゅう」（長崎の童歌）を教わりました。少し気持ちがほぐれたところでメンバーを各テーブルに配置し、語り合いを行いました（図2, 3）。

特に「絵本」のテーマには、塚田さんがたくさんの絵本のリストを作成していただき、その現物を黒岩さんが図書館の本棚から調達していただきました。「災害」のテーマは、地域密着型の医療・健康情報サービスを精力的に展開している舟田さんと荒木さんに担当していただきました。「選書」は、公共図書館と共同でお勧め資料を厳選した調べ方ガイドを作っている市川さん、そして牛澤が担当しました。

5. 企画を実施して

結果的に参加者は25人ほどでした。アンケートをとったわけではなかったため、参加者の反応を把握する

のは難しいですが、「テーマを決めてじっくり話すなんてなかなかないのでよかった」「公共の方と話せてよかった」などの声を聞いています。

私自身、皆さんのお話はとても参考になりました。公共図書館で近隣の看護学校のカリキュラムをチェックして本を買っているというお話にはびっくりしました。PubMedを当たり前に使っているという公共図書館にも……。そして、図書館とばかり言っていましたが、図書館員以外の方たちの参加があったこともうれしく思いました。ここで知り合った方の図書館2館にその後訪問できた私が、一番得をしたと思います。この企画を支えてくださった実行委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

2017年のMISは8月26日（土）、27日（日）に関西

医科大学で開催されます。関西地区も医療・健康情報サービスが盛んな地域ですので、公共図書館の方が多く参加されることと思います。

今回はあなたも参加者企画をやってみませんか？

引用文献

- 1) アンドレア・ケニヨンほか. 公共図書館による医学情報サービス研究グループ訳. 公共図書館員のための消費者健康情報提供ガイド. 東京, 日本図書館協会, 2007, 262 p. (JLA 図書館実践シリーズ, 6). (ISBN 9784820407010)
- 2) “医学情報サービス研究大会”. (オンライン), 入手先 <<https://plaza.umin.ac.jp/~mis/>>, (参照 2016-11-30).
- 3) 長崎県. “がんと向き合う サポートブック ながさき”. (オンライン), 入手先 <<http://www.pref.nagasaki.jp/object/koho-object/kennohakkobutsu/142365.html>>, (参照 2016-11-30).

(原稿受け：2016.12.8)